



所在地 大磯町東小磯 285

建物概要

- ・種類 主屋
- ・構造 木造
- ・形式 和風
- ・屋根 寄棟
- ・葺材 アルミ板瓦棒
- ・外壁 下見板張

建築面積 110坪

建築年 明治30年(1897年)

交通 JR大磯駅から徒歩15分

※特別な催し以外、非公開

早稲田大学を創立した大隈重信は、総理大臣として日本初の政党内閣を立ち上げる前年の明治30年(1897)に大磯に別荘を構えました。

現在、東に隣接する旧陸奥宗光邸と合わせて庭園を含めた敷地面積は約8,000坪、家屋は一部増改築がなされていますが、庭に面する居室部分はほぼ往時のままで保存されており、社交家の大隈は、2間の和室、計26帖の大広間「富士の間」でよく宴会を開いていました。書院風の部屋で、1間の床の間と付書院があり、床柱は面取のサルスベリです。

建物東側の方形屋根の棟は、大隈が書齋として使っていた部屋で、「神代杉」をふんだんに使った「神代の間」と呼ばれており、床の間には檜の一枚板や竹の床柱が用いられています。

その後、古河家が旧陸奥宗光邸と合わせて譲り受け、別邸として用いられてきました。

(出典：大磯のすまい(大磯町教育委員会)、写真提供：大磯町)
(2018年9月現在)